

梨を柱とした経営持続強化プラン

大山町認定農業者 米澤佑一

大山町認定農業者 米澤誠一

はじめに

鳥取県は今、鳥取県が育成した県オリジナル品種の「新甘泉」など新品種の導入とブランド化、二十世紀梨の生産安定を推進し、「旬」の梨を安定的に供給できる産地づくりと魅力ある梨経営を確立し、梨産地の活性化等を目指すため、新品種を取り入れたリレー出荷、モデル的な経営が望まれています。

しかしながら、販売が好調で高単価で取引されている「新甘泉」や面積当たりの収量が多い「王秋」の栽培面積が増加している一方で、「二十世紀」は高単価にもかかわらず袋掛け、ジベレリン塗りなど作業が多く、効率が悪いことから減少の一途を辿り、梨全体での農家戸数や栽培面積は減少傾向にあります。

そこで農家の高齢化による離農、後継者不足等、産地が抱えている課題を整理し、県果実生産額の目標達成に向け、新たな担い手の育成・確保、「新甘泉」や「王秋」の一層の生産拡大や樹体ジョイント仕立て、網掛け栽培等の栽培方式を用いることにより、梨栽培面積の減少を抑制するとともに、高単価、高効率変更により生産額の増加を図っております。

また、梨だけではなく鳥取県が開発した柿の新品種「輝太郎」も梨と違い袋掛けなどがないため、作業が効率的であり、梨の作業の空いた時間に収穫ができることで注目を集めています。

私、佑一はUターンで鳥取県に戻り、平成 28 年より 1 年半琴浦町の梨農家にアグリスタート研修に行き梨農家の基礎を学び、その後は米澤農園にて後継者として作業してきました。

父、誠一はこれまで、栽培品種の組み合わせにより高効率・高品質・多量生産の畑を造成し、新品種・新栽培方法の確立にも少なからず貢献しております。

例えば「新甘泉」の栽培技術を広め、「王秋」のコルク障害等の問題点を解決し、「ジョイント栽培」という新栽培方法を県下で初めて試験的に栽培しました。

また、交配の必要がない「秋甘泉」という新品種を古樹に接ぎ木して栽培し、新作物である柿の「輝太郎」を導入し、梨と柿の複合栽培体系を確立しました。

このように父、誠一は専業農家として梨の栽培技術確立、普及に尽力し、農業部長として選果場の運営・業務にも努めてきました。

そして、平成 30 年には家族経営協定を締結し、父、誠一から佑一（後継者）への技術・経営の継承および役割分担を明確化しました。

今後はこの「がんばる農家プラン」により、さらなる経営規模拡大を目指し、地域の担い手として、大山果樹復活に尽力したいと思います。

1. 生産経営の現状

(1) 栽培品目・面積

作目・部門名		作付面積(a)	生産量(kg)
梨	ハウス二十世紀	25	10,783
	なつひめ	10	2,586
	新甘泉	20	4,428
	二十世紀	25	7,572
	秋栄	15	3,723
	秋甘泉	15	4,063
	あきづき	2	638
	あたご	3	0
	王秋	20	11,390
柿	輝太郎	20	721
合計		155	45,904

(2) 圃場面積

区分	地目	面積(a)
所有地	田	0
	畑	105
借入地	田	0
	畑	60
合計		165

(3) 労働力

農業従事者	従事日数	区分	作業分担	備考
米澤 佑一	290 日	長男	作業全般、経理	
米澤 誠一	290 日	父		
■■■■■	250 日	母		
臨時雇用(延べ)	260 人役		交配、袋掛け	繁忙期のみ

(4) 所有農業機械・施設

機械・施設名	台数	能力・規模	備考
トラクター	■■■■■		
草刈モア			
刈払機			
運搬車			
ビニールハウス			
スピードスプレーヤー			
網かけ施設			
灌水施設			
ハウス施設			
動噴			

2. 今後の経営目標

(1) 後継者育成

今後3年を目安に米澤農園の経営継承を目指していきます。

またそれだけではなく「アグリスタート研修」等の研修生の受け入れや若い農家に対しての技術継承を行っています。

(2) 品種構成変更による作業効率化

新甘泉・王秋・二十世紀の三本柱のうち作業効率がよく、収益の増加が見込める新品種「新甘泉」と優良品種「王秋」の面積を広げていきます。

また、梨と比べて作業効率が良い柿の新品種「輝太郎」収量を増やすために樹を大きくしていきます。

(単位：a)

作目・部門名		H30 (実績)	R1 (現状)	R2	R3	R4	R5 (目標)
梨	ハウス二十世紀	25	25	25	25	25	25
	なつひめ	10	10	10	10	10	10
	新甘泉	20	20	20	30	30	35
	二十世紀	25	25	25	25	25	25
	秋栄	15	15	15	—	—	—
	秋甘泉	15	15	15	5	5	5
	あきづき	2	2	2	1	1	1
	あたご	3	3	3	5	5	5
	王秋	20	20	20	48	48	60
柿	輝太郎	20	20	20	20	20	20
合計		155	155	155	169	169	186

(3) 農業従事の改善

労働時間の短縮を図り、労務管理の徹底と休日制の導入を目指します。

(4) 今後の収量目標

(単位 : kg)

作目・部門名		H30 (実績)	R1 (現状)	R2	R3	R4	R5 (目標)
梨	ハウス二十世紀	10,783	10,133	9,288	11,000	11,000	11,000
	なつひめ	2,586	2,443	2,240	2,500	2,381	2,381
	新甘泉	4,428	6,000	8,000	10,000	10,400	11,000
	二十世紀	7,572	7,320	7,049	8,000	8,000	8,000
	秋栄	3,723	4,084	4,084	0	0	0
	秋甘泉	4,063	3,293	2,195	1,500	1,364	1,278
	あきづき	638	638	638	0	0	0
	あたご	0	0	1000	1,500	1,578	1,753
	王秋	11390	12,734	14,998	20,000	20,615	21,538
柿	輝太郎	721	1248	2,497	4,000	4,667	5,000
合計		45,904	47,893	51,989	58,500	60,005	61,950

(5) 面積目標

(単位 : a)

区分	地目	H30 (実績)	R1 (現状)	R2	R3	R4	R5 (目標)
所有地	田	0	0	0	0	0	0
	畑	105	105	105	155	155	170
借入地	田	0	0	0	0	0	0
	畑	60	60	60	30	30	30
合計		165	165	165	185	185	200

3. 課題と対策

現在大山町だけでなく県全体で高齢化により梨農家の人数が減り、後継者不足により農地だった梨園が耕作放棄地になってきております。そのため交配・摘果などの繁忙期における臨時雇用は、引退された元梨農家の方など高齢の方をお願いすることが多いため、確保も困難になり、できる作業にも限界があります。

そのため、梨の品種構成を見直し、収益性・作業性の高い品種に切り替え、作業の効率化を図り、高齢農家でも作業可能な環境を整備し、臨時雇用を確保しつつ規模拡大をしていかなければ農地の保全は図れません。

(1) 災害対策

【課題】

近年、夏は干ばつ、秋には大雨・長雨・台風などの異常気象による被害が後を絶ちません。また、カラス等の有害鳥獣による被害が出ています。これにより梨の育成がうまくいかず、小さい梨になったり落下したりします。

【改善策】

網かけ施設・防風網の整備することにより、カラス等の有害鳥獣の侵入を防ぎ、台風などの強風を軽減させ落下防止を図ります。

また灌水施設を導入し、散水を行うことで夏の干ばつに対応し、さらに土作りとして、有機物である藁ロールを樹の囲うように重機で穴を掘り、ロールを肥料と共に埋めることで、土壌が柔らかくなり根張りが良くなるため、干ばつや長雨に強い樹の育成を図ります。

(2) 品種構成の見直し

【課題】

これまで、二十世紀梨を中心とした経営を行ってきましたが、青ナシは小袋かけ、ジベレリン塗りなど赤ナシと比べると作業が多く作業性が悪いことから、繁忙期における臨時雇用の高齢農家の方には負担が大きく、今後の増産は厳しい状況です。

【改善策】

収益性、作業性の良い新品種の「新甘泉」と、収穫量が多く優良品種の「王秋」の作付を増やすことで作業の効率化を図り、繁忙期における臨時雇用の高齢農家の方でも作業負担が少なく、雇用を確保しやすい環境を整備します。

また、梨と比べて防除が少なく、袋掛け等の作業がないため、作業効率がよい柿の新品種「輝太郎」を導入することで、更なる作業効率化・生産性の向上が見込めます。

◎収穫時期表

	現状と変更なし
	目標年生産なし
	目標年増産

・現状

	8			9			10			11		
	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後
ハウス二十世紀												
なつひめ												
新甘泉												
二十世紀												
梨 秋栄												
秋甘泉												
あきづき												
あたご												
王秋												
柿 輝太郎												

・目標年

	8			9			10			11		
	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後
ハウス二十世紀												
なつひめ												
新甘泉												
二十世紀												
梨 秋栄												
秋甘泉												
あきづき												
あたご												
王秋												
柿 輝太郎												

(4) 施設

【課題】

今は圃場近くのビニールハウスに運搬車やトラクター、その他の資材を保管していますが、梱包作業などの際は作業同線が確保できないため、運搬車やトラクターを外に出さなければならず、雨ざらしなどによる損耗で機械の低寿命化を招いています。

さらに、主要品種である王秋の収穫時には、一度に大量の梨を収穫し選果の日まで保管しなくてははいけません。現状の設備では保管場所が確保できず、カバーをかけて外に保管しているため、悪天候の際は雨ざらしになり、品質の保持が難しく、低品質化を招いてしまっています。

また、現在の環境では繁忙期における臨時雇用の方の休憩スペースや、研修生を受け入れても研修スペースがなく、軽作業を行うにもすべて屋外となっています。

【改善策】

作業場兼倉庫を新設し、これまでのビニールハウスと併用することで、作業導線を確保し作業の高効率化を図り、王秋の収穫繁忙期に対応するため、収穫後の保管場所を確保し、品質保持を図る。保管場所については、収穫後すぐに屋内に入れてしまうと鮮度保持フィルム内が蒸れて水分がたまり、カビや雑菌の繁殖、腐れの原因になるため、軒下スペースを大きく確保し、一度乾燥させてから屋内保管するようにする。

また休憩スペース、研修生スペースを確保し、臨時雇用の方が働きやすい環境を整備する。

月別年間利用計画 (R5 予定)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
臨時雇用 (延べ人数)	4	4	28	45	39	50	12	32	18	4	20	4	260
利用日数 (日)	4	4	8	15	13	18	4	16	9	2	10	2	105

4. 事業計画

導入機械・施設	規模	導入年	事業費(円)	事業区分
倉庫	77m ²	2020年	7,780,000	がんばる農家プラン
改植	1,000m ²	2020年	200,000	鳥取県梨生産振興事業

5. おわりに

父、誠一として今後は新たな担い手の育成のため、様々なことをしていきたいと考えています。例えば梨や柿の栽培・剪定講習を今後も行っていきます。

ベテラン農業者が存在する梨団地に入ってきた場合は防除などの相談に乗るなど手助けを行います。また今まで通りアグリスタート研修生を受け入れて就農後も相談に乗っております。梨は作業が必要になる作物のため、地域と助け合いながら進めたいと考えています。そのため、ブロッコリー農家などに対して繁忙期でない時期に手伝いを頼んだり、逆に手伝ったりすることで今後の地域農業に対して活性化を目指して取り組んでいきます。

私、佑一は本プランにより、作業効率・生産性の向上を図り、地域の高齢農家の方でも働きやすい環境を整えることで雇用を創出し、地域に少しでも貢献しながら米澤農園のさらなる経営発展を目指していきたいと考えています。

また地域農業の発展のためには、農地を引き継ぐ後継者を増やしていかななくてはなりません。そのため将来的にはアグリマイスターとなり、梨の研修生の受け入れにも積極的に関わり、父、誠一がしてきたように私も後継者の育成に尽力していきたいと考えています。また地域の野菜の農家と共に親密に付き合いをしていきます。

明日のふるさとのため地域の農業・農地を今後どのように維持していくのか地域で話し合い、関係者、生産者が互いに知恵を出し合いながら意見交換を通じて地域の課題を再認識し、前に向かって活発に取り組んでいきたいと思えます。